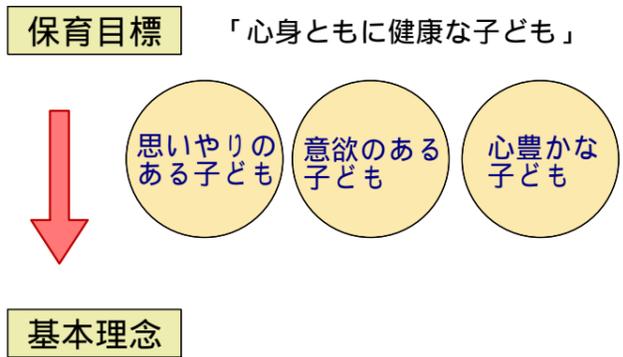


(仮称) 荒川統合保育園 建設 設計概要



- 安心・安全な保育園
- 子どもたちの生きる力を育む保育園
- 大規模園でも落ち着いて過ごせる機能的な保育園
- 環境に配慮した保育園
- 地域との交流に配慮した保育園

安心・安全な保育園

建築材には、子どもたちの健康に配慮した材料や、温かみのある地元産材を多く使用すること、災害や不審者侵入などへの対応を想定した安心・安全な保育園である事。また、予定地に面する道路は交通量も多いことから、道路上に待機車がないよう通園バスや送迎車は園内一方通行とするなどの工夫を行うとともに、園内に歩道を計画し、安全面に配慮する。

子どもたちの生きる力を育む保育園

子供たちが楽しく遊び、いきいきと生活する中、床暖房や便座の暖房など快適さだけでなく、たくましく生きる力を育む保育環境に考慮した保育園とすること。また、現在各保育園が健康な体づくりのために取り組んでいるはだし保育が行えるような屋外施設にすること。

大規模園でも落ち着いて過ごせる機能的な保育園

200人定員の子どもたちが安定して落ち着いた生活を過ごせるよう、3歳未満児保育、3歳以上児保育、子育て支援センター等の保育内容に応じたゾーン分けや一時預り延長保育、休日保育、障がい児保育等の特別保育を実施する上で、効率よく利用目的に柔軟に対応できる機能を持った保育園であること。

環境に配慮した保育園

太陽光発電などの利用や停電等の非常時に対応した安全で低コストの設備を備えること。既存の樹木等を取り入れた自然環境に優しく、また、毎日の保育に影響のある採光等の機能性、通気性等の快適性を確保すること。

地域との交流に配慮した保育園

地域の宝である子どもたちが、高齢者など地域住民とふれあう環境づくりに配慮した保育園であり、地域の子育て支援の拠点施設として荒川地区のシンボリックな存在となるような保育園であること。

設計の基本的考え方

- 子どもたちの目線、サイズで空間を捉える。
- 家庭的な保育園を計画する。
- 変化に富んだ多様な空間を計画する。
- サイン計画、色彩計画、全体的、部分的な計画を楽しく優しいデザインで計画する。
- のびのびと外遊びができる環境を計画する。
- 地元産材を積極的に利用し、木材の持つ特性を活かし、落ち着きとやすらぎを感じられる保育園とする。
- 建設コストの縮減を図る。

敷地利用計画について

- 前面道路側に面して、進入路、駐車場を配置しました。進入路は一方通行としましたが、職員駐車場等は対面通行が可能ないようにしました。駐車台数は49台+車いす用2台を計画しました。
- 北側からの園内歩道を設け、園舎部分は屋根を計画(雁木の)し、安全面と利用しやすさに配慮しました。
- 園舎は極力北側に配置するとともに屋外倉庫の位置等など、屋外遊戯場を極力広く利用できるよう計画しました。また、詳細設計において、滑り台、昇り棒、雲梯、ジャングルジム、鉄棒築山、ブランコ、砂場などの遊具や保育園のシンボルとなるような屋外遊具も計画します。
- 未満児用としての屋外遊戯場を計画しました。屋外遊具は滑り台、砂場、築山を計画します。
- 既存樹については、桜、くぬぎ、もみじなどを保存利用します。

園舎の計画について

- 採光条件の良い東南面からの採光として未満児室、一時預り室、3歳児から5歳児の保育室を配置し、また、屋外遊戯場に面してテラスを設け、屋外遊戯場との一体感と、開放感のある施設としました。
- 3歳未満児ゾーン、3歳以上児ゾーン、子育て支援センターゾーンをそれぞれ明確に配置しました。
- 子育て支援センターはアプローチから見やすい位置とし、専用の玄関を設け、気軽に利用でき、また、交流が図れるよう計画しました。
- 保育室は2歳児の定員30人を15人の2室、3歳児定員60人を20人の3室、4歳児と5歳児はそれぞれ2室とし、落ち着いた環境の確保に配慮しました。
- 遊戯室は園全体の行事が行える十分な広さで計画しました。また、ステージは壁収納型とし、フレキシブルに広く利用できるようにしました。また、ステージ幕等も対応します。
- 多目的室は図書室や延長保育、休日保育等に利用できるように計画しました。
- 沐浴、シャワー、トイレ、洗濯機などの設備はそれぞれの年齢等に応じ機能的に配置し、計画しました。
- 調理室には通路から調理の様子を子どもたちが見えるように開口部を設け、食育に役立てるよう計画をしました。
- 床暖房は維持費に有利な温水方式とし、0歳児室、1歳児室、2歳児室、障がい児室、一時預り室、及び子育て支援室に計画します。
- 空調(冷暖房)方式は運用後の燃料費や維持管理費を含め有利なGHP(ガスヒートポンプパッケージ方式)で計画します。また、同様に給湯の熱源もガスとします。
- 環境に配慮し、多目的室にはペレットストーブを計画、今後の詳細設計において太陽光発電など省エネルギーに配慮した計画を行います。

安全・安心に関する計画について

- 園舎は耐火壁により3部分に防火区画を行います。
- 保育室等からは直接屋外に出れる開口部を計画し、また、通路部分にも避難口を計画するなど二方向避難の確保をはじめ安全な避難に配慮しました。
- 事務室は車寄せ、玄関、及び屋外遊戯場を見通せる位置で計画しました。また、屋外遊戯場に直接出入りできる開口部を計画しました。
- 敷地周囲全体はフェンス、門扉を設置し、侵入者や水路に対する安全面に配慮します。
- 今後の詳細設計において、追突防止、指はさみ防止などの日常的な行動に対する安全面の配慮自家発電設備、消火設備等の防災設備、耐震性を持った構造設計、侵入者に対する安全対策などをすすめます。